

令和 5 年 度
田 川 市 立 病 院
地域医療研修カリキュラム

<地域医療研修カリキュラム>

令和5年4月現在

【内科】

(1) 循環器内科

循環器内科は、心臓カテーテル検査兼治療を中心に診察を行っています。

令和3年度は、カテーテル総数：104例、PCI治療：40例、永久ペースメーカー移植術（電池交換を含む。）11例を行いました。ASOに対するPTAも積極的に介入しており、徐脈／頻脈派不整脈に対する電気生理学的検査（EPS）や一時的／永久的ペースメーカー植込み術に関しても積極的に行っています。

研修期間中は、臨床的な面においては、患者の急性期対応を中心に接触して頂きたい。短い期間ですので多くは望まず、循環器科特有のカテーテル検査に優先的に参加して頂き、中心静脈穿刺やシース挿入／Swan-Ganz等の技術を経験し、Generalistとしても通用するSkillを身につけて頂きたい。

当院循環器科常勤3人、非常勤3人（曜日で異なる。）体制での業務であり、積極的に富むDr.の研修を望む。

(2) 消化器内科

当院消化器内科では急性期疾患から慢性期疾患まで患者を診察しています。疾患としては、消化管出血を来す疾患、急性腹症、黄疸などの急性疾患、治療を要する消化管腫瘍性疾患（食道癌、胃癌、大腸腫瘍）、炎症性腸疾患に加え、肝疾患（肝炎、肝癌）、膵疾患（膵炎、膵癌）、胆道疾患（胆石症、胆道癌）などです。

当科では消化器病の病態の把握診断の進め方に加え、消化管透視検査、消化管内視鏡検査や超音波検査、内視鏡超音波検査などの検査手技や栄養療法、イレウス解除術、各種穿刺、胃瘻造影術、内視鏡的逆行性胆管膵管造影、内視鏡的乳頭切開術、経皮経肝胆道ドレナージ術など、症例に応じて多くの手技、検査を行っています。

- 1) 外来では問診、身体診察を担当医とともにを行います。
- 2) 病棟業務としては担当医（主治医は上級医）として入院治療への参加をしていただきます。
- 3) 検査業務としては消化管内視鏡、腹部超音波検査、消化管造影検査、各種内視鏡治療へ参加していただきます。

(3) 腎臓内科

当科は医師4人体制で診察にあたっています。当院は田川市郡で唯一、腎臓内科のある基幹病院であり、腎炎から腎不全、透析導入および導入後の管理に至るまで幅広く腎疾患を学ぶことができます。

検尿異常が持続する場合は、腎生検にて診察を行い、治療方針を決定します。保存期腎不全に対しては、栄養指導をはじめ、血圧、貧血、脂質などのリスク管理を行います。末期腎不全となった場合は、療法選択を行い、血液透析では内シャント造設術、腹膜透析ではカテーテル挿入術を行います。シャントトラブルやカテーテル感染など、透析患者特有の合併症についても経験することができます。

- 1) 腎生検に助手として参加し、手技を学んでもらいます。場合によっては、その後の治療にも参加してもらいます。
- 2) 内シャント造設術、腹膜透析カテーテル留置術、シャントPTAに助手として参加し、手技を学んでもらいます。
- 3) HD開始時や終了時の処置、透析中の管理を学んでもらいます。機会があれば、HDやPDの導入を担当してもらいます。
- 4) 急性腎不全の鑑別や保存期腎不全の管理、輸液・電解質の管理を学んでもらいます。
- 5) その他、腎疾患以外の一般的な内科疾患も、指導医と一緒に学んでもらいます。

【外科】

田川市立病院外科では、研修医の皆さんの研修や見学を歓迎いたします。当科は、スタッフ減のため手術数を制限していましたが、2010年（平成22年）3月よりスタッフを増やし、手術機会も増やしています。手術に興味のある若い皆さんのやる気に期待します。

- 1) 手術症例のプレゼンテーションの仕方（患者病態の把握）
- 2) 外科：乳がん検診・マンモグラフィー読影・超音波検査
診察手技：直腸指診・肛門鏡いろいろな手術症例の術前検査の組み立て
- 3) 手術室：手洗い実習 麻酔
手術手技：開腹・閉腹、縫合、結紮（糸結ぶ）
腹腔鏡操作等、積極的に手術に参加していただきます。

4) 病棟：病棟管理、採血、腹腔、胸腔穿刺

他にも、研修時の症例によっていろいろな手技について指導を行います。

【整形外科】

当院整形外科は、田川市郡の地域中核病院として骨折、打撲を中心とした外傷、また高齢者の変性疾患、若年層のスポーツ損傷に至るまで整形外科疾患を幅広く治療している。

年間585例ほどの手術症例を行っており、内容は骨折治療を中心として、人工関節手術（年間32例前後）、関節鏡視下手術（年間15例前後）なども積極的に行っている。

5人の常勤医師で、いろいろな治療法を吟味し実践している。研修内容としては、外傷患者に対する初期治療、バラエティーに富んだ手術研修（もちろん状況に応じて執刀医として実践していただくことも考慮している。）など将来必ずためになるようなプログラムを検討している。

（研修項目）

1) 外傷患者に対する初期治療

- (1) 骨折、捻挫に対する初期治療
- (2) 切創、捻挫創に対する初期治療や縫合方法

2) 整形外科一般外来研修

- (1) 腰痛や膝痛など一般的な整形外科診察法
- (2) 関節穿刺、神経ブロックなどの注射方法
- (3) 病歴の聴取の仕方

3) 手術研修

- (1) 上記に示すような手術時の助手
- (2) 創の閉創方法（真皮縫合、皮膚縫合など）
- (3) 腰椎麻酔手技
- (4) 手術前の手洗い、ドレーピングなどの清掃操作法
- (5) 各種麻酔手技（伝達麻酔、局所静脈麻酔など）

【形成外科】

手や顔面の骨折を含めた外傷の診断や簡単な治療、熱傷の診断や保存的治療、様々な原因の傷の診断や保存的治療・簡単な外科的治療、皮膚腫瘍の診断や簡単な外科的治療を修

得したい時には形成外科がお勧めです。また、縫合が上手になりたい時もぜひ形成外科で研修してください。他、悪性腫瘍切除術の再建や顔面の骨切りによる形成、手足や顔面の先天異常なども形成外科が診る疾患です。

【小児科】

当院小児科では、当院出生の呼吸器障害、低血糖、黄疸等の病的新生児に対する医療、痙攣等の小児救急疾患、感染症、肺炎、気管支喘息、川崎病等の **common-disease**、および乳児検診、予防接種等のプライマリケアを中心に行っています。また、九州大学病院、福岡大学病院の御支援の下、小児循環器疾患、神経疾患、腎疾患および血液疾患といった専門外来診療を行っています。

当院小児科は4人の常勤医師と非常勤医師により外来・入院診療を行っています。入院診療に関しては全体回診を毎日行い患者各々の問題点を共有、ディスカッションする事でEBMを重視した質の高い医療の提供を目指しています。

初期研修医の一般教育目標は、新生児蘇生、点滴確保、腰椎穿刺等の手技の習得はもとより、小児救急疾患における適切な判断と初期治療の能力を身につける事です。

【皮膚科】

1 研修目標

全身を系統立てて診察する能力を身につけ、日常よく遭遇する皮膚科的疾患を経験しながら、重要な皮膚疾患の診断、検査、治療を身につける。

2 到達目標

医師として患者、家族と良好な人間関係を確立し、医療チームの構成員としての果たすべき役割を理解する。

- (1) 皮膚の構造と機能
- (2) 皮膚病変の記載法
- (3) 皮膚生検の手技
- (4) 皮膚科外用および内服療法の理解
- (5) 副腎皮質ホルモン外用剤の適切な使用
- (6) 光線療法
- (7) パッチテストの手技と理解

(8) 皮膚感染症の診断法、鏡検法

3 研修内容

(1) 皮膚疾患の基本的知識と診断の方法

(2) 皮膚疾患の検査、治療法の理解

【眼科】

1 研修目標

- (1) 主要眼科疾患の病態を理解し、正確な診断、的確な治療ができるようにする。
- (2) 基礎的な検査（視力、屈折、眼圧、視野、前房部～眼底検査）を修得する。
- (3) 指導医の下で病歴の聴取、外来診療を行い、カルテ記載法を学ぶ。
- (4) 基礎的な眼処置を修得し、到達度に応じて手術介助および翼状片などの簡単な手術執刀の研修を行い、さらには白内障手術などの基本的手技を学習する。
- (5) 眼外傷や急性緑内障など眼科救急に対応できる能力を養成する。
- (6) 患者と医師の人間関係について理解を深める。
- (7) 他診療科領域との関連性を十分に理解する。

2 到達目標

一般的研修行動目標達成に努力する。以下眼科的な細やかさが求められる。

（患者）

患者の失明に対する不安を理解し、個々の患者にきめ細やかな対応及び人間関係を確立する。不幸にして視力低下が免れない患者に対しては、その心的葛藤を理解する。

一方、感情に流されない冷静かつ暖かな対応・配慮ができる。視力不良者に対しては、その視力に応じた、言葉での説明・誘導ができる。また、健常視力者に対する以上に、繊細な言葉遣いができる。

（パラメディカル）

眼科診療で得られる情報は、医師の診療によるしかないものが多く、その情報をパラメディカルと共有し、患者ケアに役立たせることができる。

（安全管理）

眼科特殊機器の安全な使用方法を理解し、眼科安全管理を理解する。視力不良の患者の実際を理解し、その行動範囲・限界を把握する。

1) 基本手技

- (1) 面接技法：問診、視診ができ、カルテに記載ができる。
- (2) 投薬処方：眼科で用いる基本的な点眼、内服の投与方法、効果、副作用を理解し、処方ができる。
- (3) 注射技法：結膜注射などの、眼科特有の注射方法を理解し、習得する。
- (4) 文書・記録作成法：前眼部、眼底スケッチなど眼科特有の診療記録記載方法と医学用語を理解し、記載できる。

2) 診断技法

- (1) 視力・屈折検査 (2) 視野検査（動的・静的視野検査） (3) 眼圧測定
- (4) 色覚検査 (5) 眼位検査 (6) 隅角鏡検査 (7) 眼球突出 (8) 細隙灯顕微鏡検査 (9) 細隙灯顕微鏡写真撮影、読影 (10) 眼底検査 (11) 眼底写真撮影、読影 (12) 蛍光眼底写真撮影、読影 (13) 眼科超音波検査 (14) 眼科画像読影（CT、MRI）

上記(1)から(14)の検査を理解し、修得する。

3) 治療技術

- (1) ウイルス性結膜炎をはじめ、伝染性疾患の予防・治療
- (2) 非穿孔性眼外傷（前房出血、眼窩吹き抜け骨折等）の診断と治療
- (3) 急性眼疾患（緑内障発作、球後性視神経炎、網膜中心静脈閉塞症）の非外科的治療
- (4) 眼鏡及びコンタクトレンズ処方
- (5) 豚眼を使用した内眼手術（白内障、硝子体手術）の練習
- (6) 眼手術の直接介助